



日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2017年
7月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

「すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」

司祭 ペテロ 中原 康 貴



岩田 政親

昨年、わたしたちはフォス、プランマー両司祭の来神を記念して、神戸教区宣教140年を祝いましたが、今年には神戸開港150年として、様々な催しが神戸の各地で行われています。ちなみに、その神戸港に最初に遣って来た聖公会の宣教師はチャールズ・F・ワレン司祭でした。

ワレン司祭はキリスト教禁令の高札が撤去された1873年の12月に来日し、神戸の居留地に入りましたが、一ヶ月後、日本人がより多く住む

大阪の居留地に移りました。しかし、ワレン司祭は神戸居留地に住んでいた英国人のために、月二回、神戸にやってきてユニオン・チャーチ(超教派の教会)で祈禱書による礼拝を行うようになったのでした。そして、1876年9月21日、神戸に遣ってきたフォス、プランマー両司祭は、まずワレン司祭からユニオン・チャーチでの礼拝を引き継ぎ、日本語の習得に励みました。

神戸教区、最初の受洗者

日本語の習得は英米の宣教師たちにとって、他の言語と比べると非常に困難なことだったようです。しかし、彼らは来神の翌年に下山手通の住居に移り住み、その蔵を改装してチャペルとし、聖バルナバ(6月11日)に献堂しました。おそらく、フォス、プランマー両司祭は共にリヴァプール(イギリス)の聖バルナバ教会で働いていたので、この日を選んだのでしょう。そして、献堂式後に迎えた最初の主日礼拝で、フォス司祭はマルコ福音書16章15節から初めて日本語で説教をしました。

三ヶ月後、東京でウィリアム・B・ライト司祭(1873年に来日)から洗礼を受け、同司祭の伝道を手伝っていた水野功が来神し、フォス司祭らを手伝うようになったのですが、そのわずか二ヶ月後の1877年11月26日に最初の洗礼式が行われたのでした。ちなみに、ワレン司祭が最初に洗礼式を行ったのは1876年6月25日、来日して二年半、日本語の礼拝を始めて一年半後のことです。

140年前、最初に洗礼を受けたのは「岩田政親」という青年で、フォス司祭の日本

語教師でした。フォス司祭は彼から熱心に日本語を習いました。そして、フォス司祭は熱心に日本語を学びながら、いつの間にか彼に福音を伝えていたのです。

その後、フォス司祭は第二

代大阪地方部主教となり、「聖歌集の父」としてよく知られています。今も多くのの人に愛されている文語訳聖書の翻訳委員として、ヨハネ福音書等も翻訳しました。フォス主教がこのように日本語に熟達するようになったのは、もちろん主教自身が持っていた才能もありますが、当時はまだ数少なかった日本人の友・岩田政親に「福音を伝えたい。そのために早く日本語を習得したい」という強い思いがあったからであり、その後も「二人でも多くの日本人に福音を伝えたい」と願っていたからではないでしょうか。

福音を宣べ伝える際に、まず問われるのは、「自分の信仰は他人に伝えずにはいられないものか?」ということではないかと思えます。そして、実にわたしたちの信仰は、本来「伝えずにはいられないもの」なのです。

主の言葉は、わたしの心の骨の中に閉じ込められて火のように燃え上がります。押しつけておこうとしてわたしは疲れ果てました。わたしの負けです。

(エレミヤ 20・9)

* * *

(神戸聖ペテロ教会牧師)

神戸聖ミカエル教会副牧師